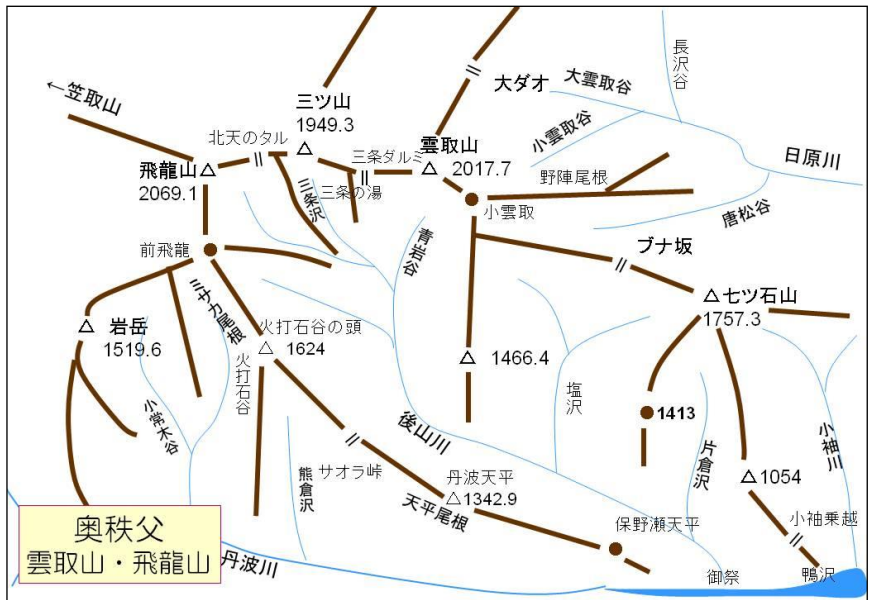


## 踏 み 跡 < My mountains >

奥秩父	鴨沢から雲取山・飛龍山・ミサカ尾根	No.056
-----	-------------------	--------

昭和41年1月22日(快晴)  
 またまた雲取山、今回は飛龍山まで足を伸ばしてミサカ尾根を下るプランを立ててみた。  
 それよりも、今日は旧正月の一日。今年に入ってから三度の山行(今回も含めて)はすべて快晴で、何も言うことなし。  
 大和町の吉野も私同様、青梅線の早朝の電車に乗ることが可能。  
 前回と同じ電車に乗り、鴨沢到着は8時半。  
 歩きなれた道を登って小袖集落を経てセツ石小屋へ。



セツ石小屋着は11時10分、いつものように遠景を楽しみながら昼食。12時に出発して石尾根を西へ。  
 雪の量も相変わらず減らず、スパッツが役に立つ。 (右下写真:石尾根にて)  
 奥多摩小屋に泊まる予定だったが、管理人が山を下りてしまったらしい。小屋にはびっしり施錠しており、どこからも入れない。近く(徒歩約一時間)に雲取山荘や山頂の避難小屋があるからいいものの、山小屋も鍵を開けておいて貰いたいこともある。しかし、常識ある登山客だけが山に来るならば、ということになるだろうが…。  
 止む無く予定を変更し、頂上の北側にある雲取山荘へ向かう。山頂北面の小屋周辺は積雪もかなり多く、膝を没する深さ。雲取山荘には15時15分に到着。  
 30分ほどストーブの周囲で、他のパーティーや小屋の人たちと雑談しながら体を温め、それから夕食の支度。  
 小屋の若い人が一心不乱に木を削って何かを作っている。よく見ると長さ25cmほどのパイプで、今パイプの腹にトータムポールのように顔を削りこんでいる。感心して眺め入っていると、壁にかけた作品を見せてくれた。靴、ピッケル、背負子、アイゼン、ザック、どれも手に乗るような可愛いものばかり。ピッケルのビナ通しの穴やアイゼンの紐かけの輪などすべてが実物どおり。話をするときには実にぶっきらぼうではあるが、手先は実に器用な人だ。  
 16時から夕食の仕度、旧正月の膳は雑煮。18時就寝前に小屋の外へ出て見たら-9℃だった。



昭和41年1月23日(晴)  
 起床5時、小屋の外は-16℃。7時10分に出発。  
 さしたる苦痛も感じない程度の登りで樹林を抜けて雲取山頂上に到着7時35分。気温は-13℃、大洞川を挟んで向かい合っている和名倉山の幅広くどっしりした姿が一番目に付く。陽が昇るにつれて気温が上昇していくのが肌感覚でもわかる。8時05分出発、前回同様山頂から西側へ下る。  
 三条ダルミ8時35分、三ツ山を経て北天のタルまでの間は所々雪の多いところや崩壊した崖などがあり緊



## 踏み跡 < My mountains >

張の連続。北天のタル11時。ゆるやかな登りで飛龍神社11時35分。ここから山頂と禿岩をピストン。10分ほど登れば飛龍山頂上(2069m)。森林の中で眺望は得られない。神社の西にある禿岩からの眺めが素晴らしい。一の瀬の谷と大菩薩山塊、笠取山。黄色い雑木林の所々に細い道が走っているのが見える。禿岩で食事をした後ゆっくりと景色を眺め、13時に出発。長いミサカ尾根の下り。「ミサカ尾根」という名前が気になったが、由来はおそらく「御坂」または「三坂」ではないかと思う。「竿のたわみ」を意味するサオラ峠(竿裏峠)と合わせて見ると、長い尾根の地形が想像できる。前飛龍(1954m)13時35分、呼吸を整える程度の小休止。火打石谷の頭(1624m)14時30分、軽食(おやつ)を食べて14時50分に出発。サオラ峠(1410m)15時20分、心地よいほどに快適に下って行く。峠から見下ろす景色は味わい深い。存分に景色を堪能して15時40分出発。丹波到着は16時30分、最終バスの時刻を気にして急いで下ってきたが、バスの時刻はまでは十分に時間があり、損をしたような気がした。

以上

(修正・更新:2023年11月)